

平成21年12月 8 日
原子力安全対策課
(2 1 - 7 1)
<15時00分記者発表>

大飯発電所 2 号機の燃料集合体漏えいに係る調査状況について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所 2 号機は、定格熱出力一定運転中の平成21年 8 月31日に、1 次冷却材中のヨウ素（I-131）濃度と希ガス濃度が、前回の測定値を若干上回ることが確認されたため、燃料漏えいの疑いがあると判断し、1 次冷却材中の放射能濃度の測定頻度を上げて監視を強化し、運転を継続してきた。

その後、1 次冷却材中のヨウ素濃度（I-131）は、保安規定で定めている運転上の制限値（63,000Bq/cm³）に比べて十分低いものの、10月 6 日頃から希ガス濃度が増加傾向にあることから、漏えい燃料の特定調査をするため、10月21日15時に出力降下を開始し、23時54分に原子炉を停止した。

[平成21年10月19、21日 記者発表済]

原子炉停止後、1 次冷却材中の放射性希ガスの濃度を低減した後、原子炉容器の上部ふたを開放し、12月 4 日から 7 日にかけて原子炉に装荷された燃料集合体（193体）を使用済燃料ピットに取り出す作業を行い、12月 7 日からは、漏えい燃料特定のため、取り出した燃料集合体について SHIPPING 検査*を実施している。

8 日現在、全数(193体)のうちの30体まで検査を終えた段階で、2 体の燃料集合体に漏えいの疑いがあることが確認された。今後、引き続き残りの燃料集合体 163体の SHIPPING 検査を行う予定である。

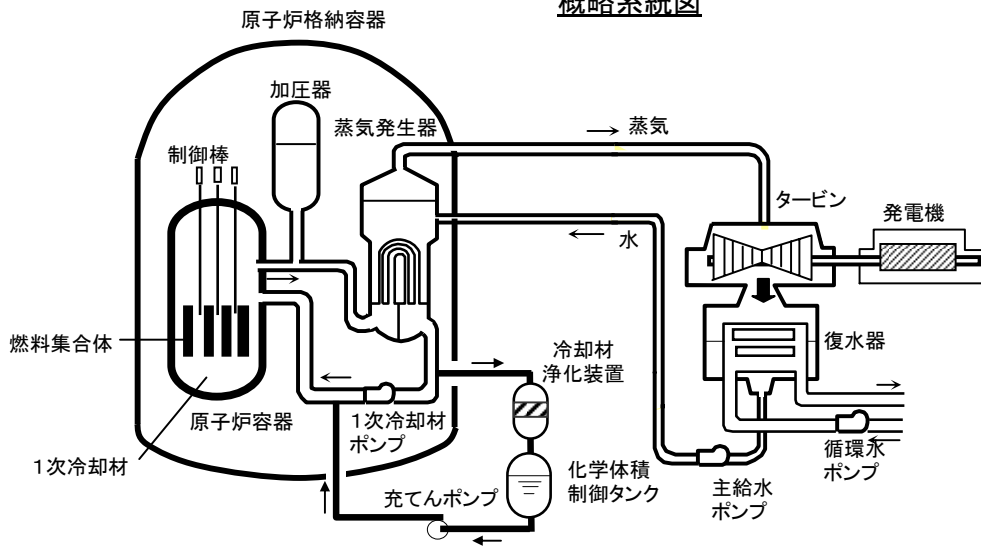
なお、当該の 2 体については今後、外観検査により燃料集合体の損傷等の異常の有無を確認するとともに、超音波による検査及びファイバースコープによる検査により漏えい燃料棒の調査を行う。

*：漏えい燃料集合体から漏れ出てくる核分裂生成物（キセノン-133、ヨウ素-131など）の量を確認し、漏えい燃料集合体かどうか判断する。

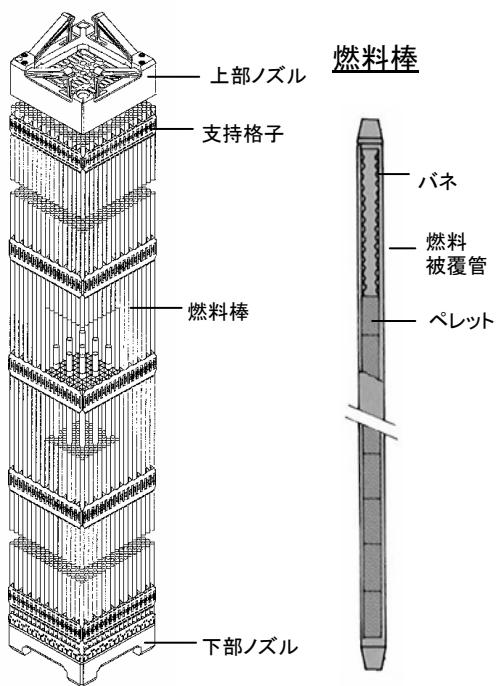
問い合わせ先(担当：有房) 内線2354・直通0776(20)0314
--

大飯発電所2号機の燃料集合体漏えいに係る調査状況について

概略系統図



燃料集合体概略図

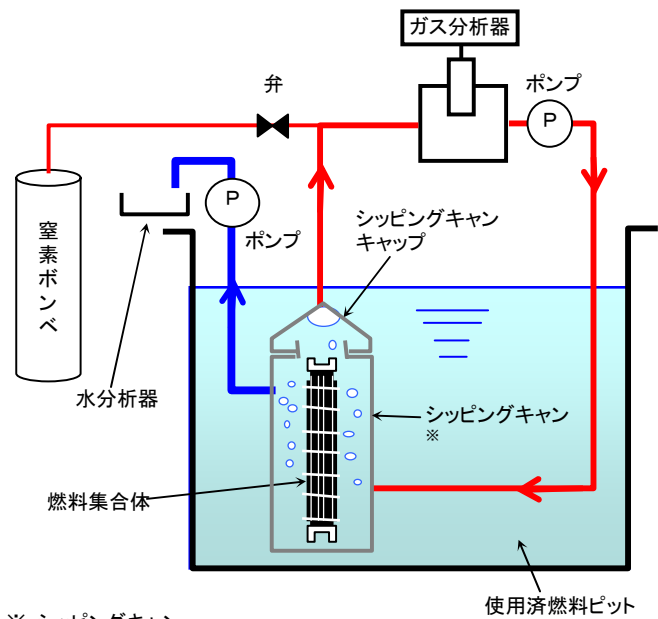


【燃料集合体の仕様】

燃料タイプ: 17×17型
全長: 約4m
全幅: 約20cm
支持格子数: 9個
燃料被覆管材質: ジルカロイ-4^{*1}または
ジルコニウム基合金^{*2}
燃料被覆管外径: 約10mm
燃料被覆管肉厚: 約0.6mm
装荷体数: 193体

※1:最高燃焼度48,000MWd/tの燃料
※2:最高燃焼度55,000MWd/tの燃料

燃料集合体 SHIPPING 検査概要



※： SHIPPING キャン

燃料集合体を使用済燃料ピット水から遮断し、燃料集合体の温度を若干上昇させ、漏えい燃料棒から核分裂生成物の放出を促すためのもの

漏えい燃料集合体が原子炉内で
装荷されていた位置

  :漏えい燃料集合体
(数字:運転サイクル数)

